NIE実践報告

1．タイトル：「発信」から培う自己表現力

2．学校名

北海道札幌市立屯田中央中学校

3．実践者名（代表者名）

伊達　峰史

4．学年

第3学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

選択社会科　23人

6．単元（本時の学習課題）名

(1)「考えよう!~受信」　(2)「伝えよう!~発信」　(3)「討論しよう!~共生」　(4)「広げよう!~投稿」

7．目標（狙い）

(1)新聞から得た情報を自分の判断によって取捨し、必要な情報をもとに自分なりの意見を構築する。(2)構築した意見を他者に伝える。(3)自分とは違う多様な考えを知る。(4)再構築した自分の意見を広く発信する。

8．評価の視点

(1)「読解」と「判断」ができたか。(2)「自分の考え」を「自分の言葉」で発信できたか。(3)他者の考えについて「共感」と「批判」ができたか。(4)再構築した自分の意見を新聞社に投稿し、世論形成を感じることができたか。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

(1)新聞記事について感想を書く。(2)感想を伝える。(3)討論する。この3つのサイクルを繰り返す。(15時間)
(4)自分の考えを新聞社に投稿する。(5時間)　※その他、裁判員制度についての集中NIE活動

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

「イチローの9年連続200安打」「衆議院議員総選挙」「鳩山新内閣発足」などのタイムリーな出来事について毎回一つずつ取り上げ、(1)~(3)の学習活動を繰り返し行った。扱う記事は各社の主張が色濃く出る社説とし、比較ができるよう複数の記事を提示した。特に政治分野の記事を取り上げた際は、公民的分野で「習得」した知識を「活用」させていくことに留意した。討論は社会科教育において重点的に訓練をしてきた経緯もあり、基本的に自由討論として話し合わせることが多かった。

NIE実践校として2学期に6社の新聞が毎日一部ずつ配達されたが、3学期の選択授業ではストックされた新聞から「裁判員制度」にかかわる記事をどんどん切り抜きさせ、100を超える記事をKJ法によって整理し、裁判員制度における問題点をピックアップしていく授業を行った。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

2名の投稿文が実際に新聞に掲載され、採用されなかった生徒も含めて、新聞というメディアが自分の意見を発信する場、つまりは世論形成を行う場になることを実感したようである。新聞は情報を受信するだけの一方通行のものではないということに気づかせることができた。

12．成果と課題

新聞記事を題材にしたことで、タイムリーな出来事についての興味関心を引き出すことができ、社会科公民的分野とリンクさせながら、いわゆる「習得」「活用」の2段階の学習活動が可能となった。また、発表・討論・投稿によって発信技術の向上を図ることができた。課題は、「探究」レベルで新聞記事をどう取り上げていけるかということであり、その可能性を模索していきたい。